

令和6年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立栄小学校		本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
学力向上×ICT活用	①授業改善に取り組む。【指標】学調・みえスタディ・チェックの結果分析で課題を明らかにし、全学年で重点的に取り組む。【目標値】課題となった問題に対して、わかる授業を行ったり、既習学習を継続して行ったりする。	○学調・みえスタの問題を解き、結果を分析して今後の授業に生かす研修を実施。	・学調・みえスタの問題を教職員全体で分析把握していくことを続ける。 ・ICT支援委員による授業実践の報告会を実施し、還流する。 ・主体的に学習する授業では、積極的にICTを活用する。 ・「どくしよゆうびん」のような学校全体で取り組む活動を設け、活性化していく。日々の読書活動を丁寧に取り組む。(貸出返却・本の紹介・ボランティア活動の充実)	・課題と指導内容で大切にすべきことをはっきりさせ、教職員間で共通理解し指導を進めてほしい。 ・「どくしよゆうびん」に非常に感銘を受けた。今後は読書リレーにつなげてほしい。 ・毎日読書の時間を設定できればおのずと読書習慣はつくと思う。 ・読書活動の推進は良好だと思う。	
	②授業力を向上させる。また、効果的なICT活用を目指す。【指標】授業公開を行い、意見交換をして、授業力を高め合う。研修会などICTの活用方法を学び合う。 【目標値】授業公開ウィークを学期に1回行う。また、学期に2〜3回ICT支援員と共に、端末活用の授業を行う。	○1・2学期で3回ICT支援員とともに端末活用の授業を行ったり、研修の還流報告を行った。授業公開ウィークは目標値を達成できた。	・毎月一回の情報共有だけでなく、普段から放課後など職員室で児童の様子を交流しているの、今後も続けていく。 ・欠席が10日以上の子の児童のケース会議以降も、状況を記録、共有し、支援を充実していく。 ・学級だけでなく学校全体で対応が必要な場合には、早期に校内委員会を開いて体制を整える。 ・学校だけの対応では難しい場合は、関係機関と連携をとって対応していく。	・登校に不安を抱き始めた子や足が向かない子への早期対応が大切である。 ・今後もきめ細かく進めてほしい。 ・子どもや家庭を含めた根気のある指導や話し合いが必要。今後ともお願いしたい。	
	③読書活動の推進【指標】図書館利用の活性化につとめる。【目標値】年間貸出冊数5000冊。	○「どくしよゆうびん」の取組を増やし、本を紹介する機会を設けた。また、貸出ランキングを掲示して、読みたい本の傾向を知らせている。 ●貸出冊数が減少している。(11月末4918冊)	○毎月1回以上、情報共有の機会をもつことができた。 ○日々児童の様子を教職員間で共有している。	・子どもたちにとって人とかかわりが増えるので今後も進めてほしい。 ・ホームページでは、学校生活やボランティア活動の紹介を積極的に更新する。	
長期欠席対策	①クラスづくり・仲間づくりやわかる授業づくりを進めて不登校等の長期欠席の未然防止に努めるとともに、日常生活の様子に気になる児童の情報を職員間で共有し、早期対応を行っていく。 【指標】情報共有 【目標値】職員会議後には毎月1回以上、児童の情報共有の機会をもつ。	○毎月1回以上、情報共有の機会をもつことができた。 ○日々児童の様子を教職員間で共有している。	・毎月一回の情報共有だけでなく、普段から放課後など職員室で児童の様子を交流しているの、今後も続けていく。 ・欠席が10日以上の子の児童のケース会議以降も、状況を記録、共有し、支援を充実していく。 ・学級だけでなく学校全体で対応が必要な場合には、早期に校内委員会を開いて体制を整える。 ・学校だけの対応では難しい場合は、関係機関と連携をとって対応していく。	・登校に不安を抱き始めた子や足が向かない子への早期対応が大切である。 ・今後もきめ細かく進めてほしい。 ・子どもや家庭を含めた根気のある指導や話し合いが必要。今後ともお願いしたい。	
	②児童とつながる機会を確保する。 【指標】家庭訪問や学習会 【目標値】連絡のない児童にはSLSに家庭訪問をしてもらう。欠席の場合は担任による家庭訪問、月1回は学習支援の機会をもつ。	○様子が気になる児童には日常的に声を掛け、欠席をした児童にはSLSや担任による家庭訪問を行い、月1回は学習支援の機会をもつことができた。	○欠席が10日を超える児童にはケース会議を開き、対応を協議することができた。 ○その後も継続して対応を行っている。	・子どもたちにとって人とかかわりが増えるので今後も進めてほしい。 ・ホームページでは、学校生活やボランティア活動の紹介を積極的に更新する。	
	③欠席が多い児童はケース会議を開く。支援課からも助言を受けて対策を協議し、対応を行っていく。 【指標】ケース会議 【目標値】4月からの欠席合計10日以上の子の児童について会議の機会をもつ。	○目標値を達成できた。 ●算数等教科の学習ボランティアを啓発する。	○行事(救命救急の学習・運動会・6年生を送る会)と授業参観は、目標値を達成できた。 ○ホームページは学校だよりを中心に月2回以上更新できた。	・学習ボランティアの活用を教職員に啓発する。 ・ホームページでは、学校生活やボランティア活動の紹介を積極的に更新する。	
地域連携	①鈴鹿型コミュニティスクールの推進 【指標】学校支援ボランティアの活用 【目標値】宿題チェックは毎日、読書は定期的、その他は各学期1回以上	○目標値を達成できた。 ●算数等教科の学習ボランティアを啓発する。	・学習ボランティアの活用を教職員に啓発する。 ・ホームページでは、学校生活やボランティア活動の紹介を積極的に更新する。	・子どもたちにとって人とかかわりが増えるので今後も進めてほしい。 ・ホームページでは、学校生活やボランティア活動の紹介を積極的に更新する。	
	②地域のひととの児童の様子共有・連携 【指標】学校行事や授業の地域の共有の公開、教育活動の情報発信 【目標値】年間3回の行事や授業の公開・月2回以上のホームページによる情報発信	○行事(救命救急の学習・運動会・6年生を送る会)と授業参観は、目標値を達成できた。 ○ホームページは学校だよりを中心に月2回以上更新できた。	○目標値を達成できた。 ●算数等教科の学習ボランティアを啓発する。	・学習ボランティアの活用を教職員に啓発する。 ・ホームページでは、学校生活やボランティア活動の紹介を積極的に更新する。	・子どもたちにとって人とかかわりが増えるので今後も進めてほしい。 ・ホームページでは、学校生活やボランティア活動の紹介を積極的に更新する。
非認知能力育成	①「非認知能力」について学ぶ。また、日々の子どもたちとの関わりを大切にす。 【指標】研修会を行う。授業や取組の中で、子どもたちと価値を共有し、意識付けの声掛けを行う。学校アンケートより子どもたちの様子を把握する。 【目標値】年間1回以上実施する。学校アンケートより子どもたちの実態を把握し、自己肯定感が高くなる回答が増える。	○年間1回以上実施でき、目標値を達成できた。 ○児童アンケートより、自己肯定感が高くなっている。(R5 79% → R6 83%)	・「非認知能力」の学習会を継続していく。 ・学校生活の活動を通して、子どもたちと多く関わり、認めていく。 ・「非認知能力」の教育実践を通信などを通して家庭に伝えていく。 ・「非認知能力」を育てる図書の読み聞かせを定期的に行う。	・教師が非認知能力育成の視点を持って日々指導していくことが大切である。成果としてその成果が数値に表れている。 ・家庭の中で子どもが認められることが大きな成長につながると思う。 ・生きる力として非認知能力を少しでも身につけてほしい。先生たちの力は大きい。 ・やりぬく力や社会性も高めていけるとよい。	
	②非認知能力を育てる図書を推奨する。 【指標】日頃の読書活動と連携させ、教師の読み聞かせの時間を活用する。 【目標値】年3回教師の読み聞かせや本の紹介を実施する。	○図書室に「非認知能力」の育成にいい図書を購入して貸出する。 ○「非認知能力」の育成にいい図書の読み聞かせに取り組む。	○計画通り行えた。 ●「学校に行くのは楽しい」R6、4月85%→R6、11月83% ○「自分には良いところがある」R6、4月82%→R6、11月83%	・教員は、日々の授業を人権の視点を持って行う。児童に他者から認められる経験させる。 ・児童の実態に合わせて個別的な人権問題に取り組む。 ・児童一人ひとりの考えを学級または学校で交流し、互いの考えを認め合う活動を行っていく。	・子どもは、自分を認めてもらうことに飢えている。人をほめることができることは素晴らしいことだと子どもたちに伝えてほしい。 ・ほぼ目標を達成できている。子どもたちに実践力を育成するための大切な視点を職員間で確認しながら今後も取り組んでほしい。
人権教育	①自他を大切にする態度、差別や偏見をなくしていくこととする実践力の育成 【指標】学級の人権課題解消を意図した仲間づくり(レポート研修年2回)外国人・子どもの人権に係わる問題を解決するための学習(全学年) 【目標値】「学校に行くのは楽しい」「自分には良いところがある」と回答する児童が増える。	○計画通り行えた。 ●「学校に行くのは楽しい」R6、4月85%→R6、11月83% ○「自分には良いところがある」R6、4月82%→R6、11月83%	・教員は、日々の授業を人権の視点を持って行う。児童に他者から認められる経験させる。 ・児童の実態に合わせて個別的な人権問題に取り組む。 ・児童一人ひとりの考えを学級または学校で交流し、互いの考えを認め合う活動を行っていく。	・子どもは、自分を認めてもらうことに飢えている。人をほめることができることは素晴らしいことだと子どもたちに伝えてほしい。 ・ほぼ目標を達成できている。子どもたちに実践力を育成するための大切な視点を職員間で確認しながら今後も取り組んでほしい。	
	②平和と教育 【指標】平和について考える取組(全学年、年1回以上) 【目標値】取組後の考えを書き残し、掲示する。	○計画通り行えた。 ●掲示について具体的に提案しなかったため各担任裁量となり徹底しなかった。	○2学期末時点では達成できている。3学期も続けていく。	・褒め言葉のあふれる学級経営を目指す。 ・「みんなが気持ちよくすごせる社会・学級」になるよう、教員が模範的な行動をとる。また、「いじめは人間として絶対に許されない」ということを児童に意識づける。 ・アンケートやノーメディア等は引き続き行っていく。	・いじめめるのは自分も満たされたいという思いの裏返しだと感じる。 ・子どもたちの中には、言葉一つがいじめにつながっていくことが理解できていないのではと思う。 ・子ども同士の話し合いや教師による細かい部分の指導は大切だと思う。 ・良好な防止策ができていく。子どもの変化をつかめるかが大切である。日々の言動やアンケートを通してさらなる取組をお願いしたい。 ・小さないじめを早く確認して対応していくとよい。
生活指導	①いじめの防止・早期発見・解決に向けた組織的な取組 【指標】いじめについてのアンケート実施後の適切な対応、学校全体での情報共有、保護者への啓発 【目標値】いじめについてのアンケートを学期に1回実施する、情報共有の機会を職員会議に位置付ける、学校だよりやホームページに三重県いじめ防止条例・栄小学校いじめ防止基本方針を載せる、児童会でいじめ防止強化月間に取り組む。	○2学期末時点では達成できている。3学期も続けていく。	・褒め言葉のあふれる学級経営を目指す。 ・「みんなが気持ちよくすごせる社会・学級」になるよう、教員が模範的な行動をとる。また、「いじめは人間として絶対に許されない」ということを児童に意識づける。 ・アンケートやノーメディア等は引き続き行っていく。	・いじめめるのは自分も満たされたいという思いの裏返しだと感じる。 ・子どもたちの中には、言葉一つがいじめにつながっていくことが理解できていないのではと思う。 ・子ども同士の話し合いや教師による細かい部分の指導は大切だと思う。 ・良好な防止策ができていく。子どもの変化をつかめるかが大切である。日々の言動やアンケートを通してさらなる取組をお願いしたい。 ・小さないじめを早く確認して対応していくとよい。	
	②基本的な生活習慣の定着 【指標】あいさつ運動、食育、健康教育、ノーメディア運動の推進 【目標値】あいさつ運動を月に1度実施する。各学年栄養教諭と担任による食育授業を計画・実施する、ノーメディア運動・家庭学習推進週間を中学校と合同で実施する(年3回)。	○2学期末時点では達成できている。ノーメディア運動・家庭学習推進週間を中学校と合同で実施する(年3回)以外にも学校独自で追加して行うことができています。	○懇談会や支援会議の中で、学期に1回保護者と協議し、支援計画の見直しを行った。指導計画も学期1回作成した。	・引き続き保護者と連携をして支援を行っていく。 ・児童理解のために、日頃から教職員間で情報共有を行い、研修も年1回以上行っていく。	・しっかりと取組を進めていた。だいたい。今後も引き続きお願いしたい。
特別支援教育	①児童の実態把握と個別の支援計画・指導計画の作成 【指標】定期的に保護者と協議し、個別の支援計画・指導計画の立案と見直しを行う。 【目標値】支援計画は年に1回以上見直し、指導計画は学期1回作成する。	○懇談会や支援会議の中で、学期に1回保護者と協議し、支援計画の見直しを行った。指導計画も学期1回作成した。	・引き続き保護者と連携をして支援を行っていく。 ・児童理解のために、日頃から教職員間で情報共有を行い、研修も年1回以上行っていく。	・しっかりと取組を進めていた。だいたい。今後も引き続きお願いしたい。	
	②教職員間での情報共有 【指標】情報共有を図ることで教職員全員で児童を見守る。 【目標値】特別支援教育の校内委員会を月1回行う。	○目標値を達成できた。 ○日々児童の様子を教職員間で共有している。	○職員向けの特別支援教育の研修を計画通り行った。 ○計画通り特別支援学級担任より特別支援学級在籍児童の理解に向けての授業を全クラスで実施した。	・引き続き保護者と連携をして支援を行っていく。 ・児童理解のために、日頃から教職員間で情報共有を行い、研修も年1回以上行っていく。	・しっかりと取組を進めていた。だいたい。今後も引き続きお願いしたい。
	③児童理解のための機会を設ける 【指標】児童理解のために職員への研修を行う。特別支援学級在籍児童の理解について児童向けに特別支援学級担任より授業を行う。 【目標値】特別支援教育の研修会を1回以上行う。特別支援学級在籍児童の理解について児童向けの授業を全学年に1回以上行う。	○職員向けの特別支援教育の研修を計画通り行った。 ○計画通り特別支援学級担任より特別支援学級在籍児童の理解に向けての授業を全クラスで実施した。	○時間外労働時間 360時間 目標値未達成 ●時間外労働時間において、月1人あたり45時間超えの職員(11月末)は2人(昨年度6人)。4・5月の多忙さが要因。	・業務支援員の活用例や活用計画を紹介し、活用を推進する。 ・ICT活用による事務処理作業の簡略化を提案・実践していく。 ・時間外労働時間の状況を月別に教職員に提示し、時間外労働時間削減や提示対抗への意識を高める。	・時間外労働時間の縮減に向け、引き続き取り組んでいただきたい。 ・学校内だけでなく、教育委員会からの書類等提出の軽減なども併せて考える余地があると思う。
教職員の働き方改革	①時間外労働時間の削減・業務改善 【指標】ICT機器を有効に活用し、効率的に校務等を進め、ワークバランスの見直しを図る。 【目標値】時間外労働時間 年間360時間超の職員0人、月1人あたり45時間超えの職員0人	●時間外労働時間 360時間 目標値未達成 ●時間外労働時間において、月1人あたり45時間超えの職員(11月末)は2人(昨年度6人)。4・5月の多忙さが要因。	・業務支援員の活用例や活用計画を紹介し、活用を推進する。 ・ICT活用による事務処理作業の簡略化を提案・実践していく。 ・時間外労働時間の状況を月別に教職員に提示し、時間外労働時間削減や提示対抗への意識を高める。	・時間外労働時間の縮減に向け、引き続き取り組んでいただきたい。 ・学校内だけでなく、教育委員会からの書類等提出の軽減なども併せて考える余地があると思う。	
	②年休取得の増加 【指標】年休・特休取得日数【目標値】年間22日以上	○休暇取得11月末合計16日(昨年度16日)で目標を達成する見込みである。そのうち10日を昨年度同様長期休暇に取得。	○月2回の定時退校率(11月末)は93.2%で達成できた(昨年度78%)。	・業務支援員の活用例や活用計画を紹介し、活用を推進する。 ・ICT活用による事務処理作業の簡略化を提案・実践していく。 ・時間外労働時間の状況を月別に教職員に提示し、時間外労働時間削減や提示対抗への意識を高める。	・時間外労働時間の縮減に向け、引き続き取り組んでいただきたい。 ・学校内だけでなく、教育委員会からの書類等提出の軽減なども併せて考える余地があると思う。
	③定時退校日の設定と実行 【指標】定時退校状況【目標値】月2回の設定日の退校率90%以上	○月2回の定時退校率(11月末)は93.2%で達成できた(昨年度78%)。			